Nepal 03

ネパールの子どもたちから自分の生き方を考えてみよう

織田　祐恵
香川県高松市立木太中学校

◎実践教科等／学級活動・道徳　◎対象学年／中学2年生
◎時間数／6時間　◎対象人数／39名

テーマがすばらしい!

授業のテーマがしっかりと絞られており、心が動かされて優しい気持ちになれた。導入では衣装を効果的に使用したり、目的意識をもって選んだ写真の活用がすばらしい。

カリキュラム

【実践の目的】　日本のことだけでなく、外国にも目を向け世界の現状を知ることで、異文化への理解を深めると共に、違いや多様性を認める態度をもつ。また、自国の良さを知り、日本人としての誇りをもってどのように生きていくか、また、世界の人々が平和に暮らせるために、自分がどう生きていきたいかを考える。

友達とのコミュニケーションを図り、協力して課題の解決に努めることを通して、さまざまな人と「共に」よりよく生きようとする態度を身につける。また、多くの人に支えられて社会の一員として生きている喜びをもたせると共に、自分の将来に希望を持ち、夢に向かって前向きに努力することの大切さを知る。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	**ネパールってどんな国?** **私にとっての幸せとは?** ネパールや、幸せに対する自分の考えを知るきっかけにする	①ネパールってどんな国アンケートに答える ②私にとっての幸せとはアンケートに答える	・ネパールってどんな国アンケート ・私にとっての幸せとはアンケート
2	**世界の様子をみてみよう** ・自分が外国に対して知識が乏しく、意識が低いことに気付く ・また、開発途上国の技術や資本不足の苦しい現状を知る	①自分が知っている国の名前を制限時間内にできるだけたくさん書く、書いた国名を振り返り、偏りがあることに気づく ②貿易ゲームの方法を知る ③班に分かれ貿易ゲームに取り組む ④活動の振り返りをする	・ワークシート ・貿易ゲームキット （封筒の中に、はさみ・鉛筆・分度器・定規・コンパス・紙・紙で作ったお金などを入れたもの）
3	**写真から情報を読み取ろう** フォトランゲージの方法や視点を知ると共に、日本や自分の生活にとらわれない柔軟な思考と、友人の発言や世界の人たちの生き方を否定しない態度が必要なことに気付く	①各班毎に割り当てられた写真1枚を見て、「分かること」、「想像すること、疑問に思うこと」に分けて付箋紙に書き出す ②付箋紙を整理、分類することで、写真が訴えていることを考え、写真にタイトルをつける ③代表者が写真を示しながら、写真のタイトルやみんなで考えたことを発表する	・JICAフォトランゲージキット （トルコ・フィリピン）
4	**「ネパールからのおみやげ」（自作写真資料）** ・ネパールの子どもたちの姿をとおして、自分の将来に目標をもち、その実現に向かいよりよく生きていくことの重要性を実感することができる ・自分の思いや考えを否定することなく他者に伝えたり、人の意見を尊重しながら真剣に聞いたりすることができる	①フォトランゲージの方法、視点、態度面での注意事項を確認する ②班ごとにフォトランゲージをする （班ごとに異なった5枚の写真を読み解く） ③ネパールの子どもたちの思いを考える ④教師の話を聞き、本時を通しての感想を書き、まとめをする	・写真5枚（フォトランゲージ用） ・ワークシート ・アンケート結果 ・実物資料（ネパールの給食） ・衣装「クルタ」 ・参考図書「世界の子どもたち ネパール」 ・パワーポイント自作資料
5	**日本を紹介しよう** ・自国日本について考え、日本の優れた伝統や文化、技術などについて理解する ・また、自分自身がそれらの価値を大切にして、社会を作り上げていく社会の一員であるという自覚をもつ	①ブレインストーミングの手法を使って、日本の箱（日本の特色や、外国の人に伝えたいこと）に入れたいものを班で出し合う ②話し合って、日本の箱に入れるものを決める	・ワークシート
6	**まとめ 自分の生き方を考えよう** これまでの学習を通して、世界の現状にふれたことで、異文化への関心を高め、国際社会の一員としての自分の生き方を考え直す	①外国の人に日本のいいところを紹介するパンフレットを作る ②ALTから見た日本について話を聞く ③ビデオ教材を視聴し、JICAについて知る ④これまでの学習を振り返り、学んだことをこれからの自分にどう活かしていくかを考える	・ワークシート ・写真「ALTから見た日本」 ・「JICAくんの国際協力ってなあに?」 （JICAビデオ）

※授業の詳細

1時限目 ネパールってどんな国？ 私にとっての幸せとは？

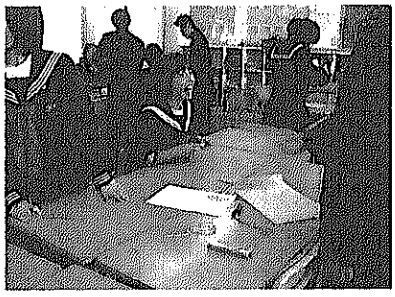
ネパールのイメージを尋ねた「ネパールってどんな国？」の記述を見ると、「暑い」「貧しい」「ターバン」「カレー」というように、知識は断片的で、偏りや混乱が見られた。また、人生における価値観を尋ねた「私にとっての幸せとは？」では、今ほしいものを尋ねた項目に「お金」「携帯」というように、物の豊かさを求める傾向が見られた。

2時限目 世界の様子をみてみよう

まず、ワークシートに自分の知っている国の名前を3分間で、できるだけたくさん書かせ、世界に目を向けさせるきっかけとした。全員が必死に書き始め、50カ国以上書いた生徒が2人いたが、25～30カ国書いた生徒が多かった。また、ヨーロッパやアジアの国名は多く出ていたが、アフリカや南アメリカの国はあまり出ていなかった。次の貿易ゲームでは、封筒の中身を見て、始めはとまどっていたが、次第に他の班の様子が分かると、生き生きとした顔で交渉をしていた。50分の授業で行ったので、最後の振り返りの時間が十分に取れなかったことが残念だった。

生徒の感想より

- 道具が少なかったので、お金を獲得するのはとても大変だったけど、班のメンバーと真剣に考えて、お金と交換で他の班から道具を手に入れるなどの工夫をした。
- 最初は渡されたものの多い班が多くのお金を稼いでいたが、時間がたつにつれて、班の人や他の班の人とうまく協力している班がたくさん稼いでいた。実際の貿易でも世界の状況をよく見て、協力していくことが大切だと思った。
- 材料がないともうけられないし、知恵もなければいけない。いろんなものがそろっていて物が豊かな日本は、物を残したり、まだ使えるのに捨てたりするのはいけないと思った。
- 紙を切る人、お金を管理する人、交渉に行ってくる人など役割を分担して協力したので、たくさんのお金を得ることができた。また、みんなで意見を出し合ったこともよかったと思う。
- 資源を他の国に送って、その国で加工し、また違う国で売るなどの、実際に行われている世界の貿易の仕組みがよく分かった。
- 世界では、物がたくさんある国とそうでない国との差がとても激しいと思った。
- 交渉するのは大変だったけど、とてもおもしろかった。活動を通してクラスの人とさらに仲良くなれたと思う。



3時限目 写真から情報を読み取ろう

JICAフォトランゲージキットを使って、フォトランゲージの方法や視点を学ばせた。生徒は、よく理解していた。

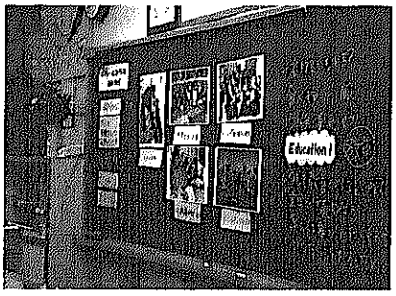
4時限目 「ネパールからのおみやげ」

日頃、目標を見失いがちになる生徒に、ネパールの子どもたちの姿を知らせることで、生き方を考え直すきっかけにさせたいと思い、『ネパールからのおみやげ』というタイトルをつけた。まず、「今日は、私からみんなへの愛をこめてのおみやげがあります…。」と授業を始めた。「一つはこのコートの中に…」と言いながら現地の衣装であるクルタ姿になると、驚きの声があがり、生徒の心をつかむことができた。

そして「もう一つは写真です。みんなにあることを伝えたくて、ネパールに行って写真を撮ってきました。私の気持ちがこの写真につまっているから、よく考えてください。」と、ラッピングした写真を班に一枚ずつ配った。現地で撮った5種類の写真を使い、4～5人の班でフォトランゲージを行った。ネパールの子どもたちが、厳しい生活環境の中で、明るくたくましく生きていることを感じさせる写真である。教室の窓は小さく、屋根はトタン、必要最低限の物しかない学習環境にもかかわらず、「勉強したい、学びたい」「人々の役に立ちたい」という子どもたちの思いがよく表されている。班の代表者が全体の前で、自分たちがつけた写真のタイトルや写真から分かったことを発表すると、自分たちと同じくらいの年齢の子どもたちがどんな生活をしているのか興味深く聞いていた。

授業の後半部分では、「ネパールの子どもたちが一番ほしいものは何だろう」「なぜ教育が一番ほしいんだろう」という２つの発問をなげかけた。やはり、「教育」という答えに驚いていた。また「～になりたい！」と堂々と自分の夢を語る子どもたちの姿をパワーポイント自作資料で紹介すると「だれかのために何かをしたい」と、人を思いやる優しい気持ちが伝わったようで、「自分たちにないものをネパールの子どもたちに教えられた」など生徒それぞれが何かを感じ、職場体験学習を終え自分の将来について考え始めた生徒たちにとって、いい刺激になったようだ。

そして、最後のまとめでは、筆者自身がネパール滞在中、特に感じた人と人とのつながりや人の温かさについて感じてもらいたいと思い、ネパールでのエピソードを紹介した。



生徒の感想より

ネパールはどちらかというと
貧しい国なので、ぜいたくはできないけど、心の広い人がたくさんいる国だと思った。小さな子でも、だれかのために一生懸命働いたり勉強したりしていた。ネパールの人々の笑顔はすごく温かくて安心できると思った。日本では、勉強すること、自分の家のお風呂に入ること、三食ちゃんと食べることは当たり前になっているので、今の生活にもっとありがたみを持つべきだと思った。

ネパールの子どもたちは、しっかりと自分の夢をもっていて、それも人のために、国のために、っていうのがすごいと思った。

自分も、今の環境で生活できていることに感謝して、夢に向かってがんばりたい。

この授業を受けてネパールの子どもたちは勉強をしたいんだという気持ちがものすごく伝わってきた。勉強をして人のためになることをしたいという夢がある彼らは、とても立派だと思う。

見ず知らずの人に声をかけるのは本当に勇気のいることだが、そういう支え合いの心がとても大事だと分かった。

私も、いろんな国を自分の目で、どんな国なのかを確かめてみたいと思った。

〈所感〉

校内研修の研究授業をかねて行ったので、道徳部会や同じ学年団の先生方をはじめたくさん先生方の協力があり、本当にありがたかった。指導案の検討の段階では、写真の選択、フォトランゲージに全員を参加させるための班の人数、発表の仕方や黒板への資料の残し方、後半部分の発問での生徒の意識の流れ、生徒のイメージをマイナスで終わらせないための対応などについて、一生懸命考えてくださり多くのアドバイスをいただいた。また、準備の段階に入ってからも同じ資料を使って授業をしてくださる先生や、授業前日の放課後には、生徒役として模擬授業に協力していただいた先生もおり、そういった先生方の試行錯誤のおかげで、生徒に感動を与えられる授業となった。

そして、何を伝えたいのかが曖昧だった自分自身の考えも、授業の準備を進める中で少しずつはっきりとしてきた。これまで、いろいろな国に旅行に行き、現地の人のひたむきに生きる姿や、人の温かさにふれ、教えられたことも多かった。しかし、現地での感動や感じたことを生徒に伝えたい、という思いはあったものの、それを伝える手だてがみつからなかった。今回の授業を通し、教師自身が実際に現地に足を運ぶことで、現地で撮った写真や映像、衣装などの実物資料を得て、生徒にとって興味深い教材ができることが分かった。また、写真一枚にしても、その写真の伝えるメッセージが強ければ強いほど、生徒は表面的なことにとどまらず奥深いところまで感じ取ろうとし、生徒自身が授業の中で一つの教材を作りだしていったと強く感じた。

5時限目 日本を紹介しよう

日本の箱に入れたいものを班ごとにブレインストーミングをし、日本の箱に入れるもの３つを決めさせた。はじめはなかなか考えが浮かばない生徒もいたが、普段の生活の中に日本らしいものがたくさんあることに気づくと、次から次へと書き出していた。自分の国を見つめ直す、いいきっかけになったと思う。

生徒の感想より

日本を外から見てみると、自然や
文化などにさまざまな特徴があると思った。中には外国から伝わったものもあるが、それらの外国の文化も日本にとてもよくなじんでいる。あらためて日本の文化が好きになった。

今まで日本のことをあまり考えたことがなかったので、最初はなかなか見つけられなかったが、身近なものにたくさんあることに気づいた。毎日の生活に日本の文化が受けつがれているなぁと思った。日本のことに少し興味がもてたかもしれない。

6時限目 まとめ 自分の生き方を考えよう

まず、外国の人に、日本のいいところを紹介するパンフレットを作らせた。次にALTから見た日本について話

を聞いた。そして、国際協力についてのビデオ教材を視聴し、JICAについて学習した。最後に、これまでの学習を振り返り、学んだことをこれからの自分にどういかしていくかを考えた。

生徒の感想より

アダム先生が日本のことをどう思っているのかを聞いて、今まで自分が思っていたよりも日本のいいところが意外と多いことが分かった。もっと日本のことを調べてみたいと思った。

日本は外国から受けた恩を外国に返していると思う。だから、国民みんなで援助していくことが大切だと思う。

私たちがこうしている間にも、世界には苦しんでいる人がたくさんいることが分かった。そういった人々を支えるために働いているJICAの人は、かっこいいと思った。外国でも日本人が活躍していることを知りびっくりした。

国と国とが協力して世界が豊かになるということがすごいことだと思った。お金や物だけでなく、技術も海を渡って世界の人々のためになっていることが分かった。助け合いが大切だと思う。

❖成果と課題

〈成果〉

①教師としての成長

・授業実践のための教材探しの研修であると目的意識をもって参加でき、視点や課題をもっての見学や交流ができた。

・実物資料や自分で撮影した写真、また、それを使った参加型の手法は、生徒の意欲を高揚させたり、考えを深めさせたりするのに、非常に効果的であると分かった。

・同僚の教師に、研修報告をしたり、授業づくりの協力を依頼することで、いっしょに授業に取り組んでもらえ、国際理解教育の輪が広がり、自分の授業力が高まった。

②生徒の成長

・開発途上国の人々の生活や思い、そして日本の現状やあり方、ひいては、自分自身の生き方について考えるきっかけになった。

・JICAの活動や国際協力について理解できた。中には、自分で外国に行って、外国の様子を自分の目で確かめたいと考える生徒も出てきた。

・様々な班活動をとおして、自分の考えを表現したり、友だちの意見に耳を傾け、受け入れ、まとめていったりする態度が身についた。

〈課題〉

①限られた時間の中で、効果的な資料を選び、手だてを工夫して授業を構成していく力がまだ不足しており、自分の思いを十分に伝えることができなかった。

②特に、次の視点を十分に掘り下げることができず、表面的な理解にとどまった部分があることを否めない。

・日本にいる自分たちの生活は、諸外国の協力の上に成り立っており、日本人の生活と、世界中の人たちの生活はつながっているということ。

・国際理解は、家族や友だちとのコミュニケーション、理解の延長線上にあるということ。

・国際協力で重要なのは、資本や物質だけでなく、技術が最も必要であること。しかも、一方的なものでなく、相手国の状況に合わさなければならないということ。

③ ①②のことを克服し、向上するために、次のような幅広い学習を取り入れて、長期にわたる綿密な学習計画を完成させていく。

・総合的な学習の時間を活用し、コース別学習で深める。

・海外で活躍する日本人、中でも青年海外協力隊として活動された方を招いて、直接話をしてもらう。

・環境、人権、福祉など様々な分野でも、教材開発を進める。

Nepal 04

世界に目を向け、自分の暮らしについて考えよう

槇　裕美子
愛媛県東温市立川内中学校

◎実践教科等／総合的な学習の時間　◎対象学年／中学3年生
◎時間数／15時間　◎対象人数／41名

DVDとパワーポイントを効果的に活用したり、寸劇を取り入れるなど、中学生が育っている様子が伝わってくる内容構成がすばらしい。

カリキュラム

【実践の目的】○諸外国の人々の生活や文化に対する関心と理解を深め、自分の暮らしについて考える。
○世界の諸問題について自ら課題をもち、自ら解決するための思考力や判断力を身に付け、進んで国際貢献しようとする態度を育てる。
○課題の解決や探究活動に主体的に取り組み、学び方やものの考え方を身に付ける。

●テーマ観

物と情報があふれた時代に育っている日本の子どもたちは、今の自分の生活や考え方が当たり前だと思っている。島国の日本に生きる子どもたちにとって、他国の生活や考え方、それらの背景にある伝統的文化を知ることは、自分たちの暮らしを見つめ直すことであり、日本人が失いつつあるもの、無駄にしている何かを発見することにもなる。さらにそこから自分と他国とのつながりや地球全体の問題が見えてくる。

さまざまな文化や社会的背景を持つ人々との「共生」が必要とされる今日、多文化理解や国際交流活動を通して、子どもたちは多くの価値観に触れ、自分の考えや見方をぶつけ合って多様なものの見方ができるようになると考える。また、個々が発見した課題について深く考え追求することを通して、問題意識を持ち行動する力を身に付けることができると考える。

●生徒観

本校の生徒は、地域内で固定化された人間関係の中で生活している傾向が強く見られる。そのため他者と創造的な関係を築いたり、自分が遭遇した事象に対して柔軟に対処したりする力に弱いという実態がある。本学年の生徒は、1年時に『かわうち探検』、2年時に『我が国を見直そう』などをテーマに総合的な学習の時間に取り組んできた。3年時の前期には「高校調べ」や「先輩と語る会」を通して、進路選択に必要な情報を集め自分の進路について自分なりに考えることができた。これらの活動を通して、情報を収集し、まとめたり発表したりする力を高めてきたが、自ら課題を見つけ、主体的に追究することを苦手とする傾向が見られた。後期には『人権』『環境』『国際理解』の3つのテーマに分かれ、講座別学習を進めている。『国際理解』講座においては、調べ学習や体験的な学習、国際交流活動などを通して多文化理解を深め、国際化の進展や社会の変化に柔軟に対応できる態度の育成を図りたい。

●指導観

地球上のあらゆるところに家族の営みがあり、子どもたちがいる。それぞれの土地の気候・風土に合った生活があり、文化がある。その文化には優劣がつけられないこと、そしてみな同じ仲間であるということを知らせたい。

生徒が主体的に課題を設定するため、今年自分自身がネパールで研修してきたことを動機づけとして生かしたい。ネパールの生活や文化、学校教育、社会事情などを正しく理解し、自分たちの生活を見直すことを通して課題を見つけさせ、課題を追究する段階においても、興味・関心を持って学習を進めることができるよう体験的な学習を取り入れるなど、指導の工夫を図りたい。そして、生徒が互いに高め合う場を設定し、より効果的に表現する力を身に付けさせていきたい。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	**ネパールってどんな国?** ネパールについて知り、世界の国が抱える問題に関心を持つ	①水汲みをしている人の写真を使って導入 ②ネパールに関する3択クイズ ③教師の話を聞く　④感想を発表する	・パワーポイント ・ネパールで収集した写真、雑誌 ・教科書、サリー、通貨等
2	**世界がもし100人の村だったら** 映像を通して、世界の諸問題を知る	①前時の感想を発表し合う ②ネパールや他の開発途上国の生活を紹介するビデオを視聴する　③感想を書く	・ネパールで撮影したビデオや写真を編集したもの ・世界がもし100人の村だったら
3	**ネパールの子どもたち** 「欲しいものと必要なもの」を通して基本的権利について考えよう	①自分にとって「欲しいもの」と「必要なもの」を考える ②「欲しいもの」と「必要なもの」の違いは何か考える 「欲しいもの」と「必要なもの」が人によって違うのはなぜか、話し合う ③ネパールの子どもたちについて話を聞く	・ワークシート （欲しいものと必要なもの） ・ネパールの子どもたちの写真

4	**世界の子どもたちはどんな生活をしているのだろう** 世界の諸問題に関心を持ち、自分のテーマを見つける	①インターネット（JICAホームページ:『ぼくら地球調査隊』）を利用して、今後の課題を探す	・JICAクラスルーム（開発支援教育）
5・6	**世界の諸問題について調べよう**	自分のテーマについてさまざまな資料を集める	・図書館の本　・インターネット
7〜11	**調べたことを壁新聞にまとめよう**	①記事作り　②構成　③下書き　④清書	・パワーポイント ・ネパールで収集した写真、雑誌 ・教科書、ザリー、通貨等
12	**講座内で発表**	①グループで発表準備　②1グループ5分の発表 ③相互評価	
13	**文化祭での発表**	①各グループの学習の成果を発表 ②『国際貢献』について3択クイズや寸劇を入れながら紹介	・パワーポイント
14・15	**世界の人に学ぶ会**	①全体会で剣道の形、獅子舞を披露し、日本文化を紹介 ②分散会で各国の生活様式や文化についてお話を聞く ③質問・お礼のあいさつ ④感想を書く	

❖授業の詳細

1時限目 ネパールってどんな国？

まずパワーポイントを使ってネパールの人が町中で水汲みをしている写真を提示する。その際、何をしているのかを考えさせるように一部を隠して紹介した。生徒からは「何かを見ている」「集まって話をしている」などの意見が出た。「これは水汲みをしているところ」と説明し、水汲みのために使う容器、容器を抱えて歩く女性の写真を提示すると、生徒たちは驚いた様子を見せた。ここで、毎日水汲みが大事な日課になるネパールってどんな国だろう？と今日の学習課題を伝えた。

水汲みの様子

次に、グループに分かれ、「ネパールの位置は？」「ネパールで最も多くの人に信仰されている宗教は？」「ネパールで正しいマナーはどれ？」など生活様式や文化を紹介するための3択クイズを行った。グループ対抗戦にしたところ、生徒たちはたいへん盛り上がり、興味・関心を持って取り組むことができた。上位のグループにはネパールで購入してきた国旗のシールをプレゼントした。その後、はじめて知ったことや不思議に思ったことなどを自分のワークシートに記入させながら説明を行った。

最後に、授業全体の感想を書き、授業のまとめとした。

生徒の感想より

日本とのあまりの違いに本当に驚きました。食事のマナーなどさまざまなことをクイズ形式で知ることができてネパールのことがよく分かった気がします。私は今日の授業を通してネパールのことをもっと知りたいと思ったし、他の国のことも調べて理解していきたいと思いました。

今日の学習を通して、ネパールのことをたくさん知ることができました。その中で日本とネパールの違いもいくつかありました。食べ物や学校やトイレ…その中で一番驚いたのが、私たちと同じ年齢くらいの子どもたちが家族のために働いていることです。私には絶対できないことだと思いました。ネパールの生活の厳しさを知りました。

ネパールの人たちはみんな笑顔だった。一人一人が満足な生活をしているわけではなくて、字の読めない人や学校に行けない子どもたち、まだ小さいのに家族のために働くこどもたちを見ました。それなのに、笑顔で明日を信じる強い心を感じることができました。

今回の授業では自分の知らない他国の状況を知ることができました。いろいろな国のことを知り、互いの文化を理解しあうことが本当の国際理解だと思います。ネパールは発展途上国です。このような国を救うために自分にできることを考え、国際貢献することは将来の自分たちに必要なことだと思います。

2時限目 世界がもし100人の村だったら

まず、グループで前時（ネパールってどんな国？）の感想について話し合い、さまざまな意見を出し合った。

次に、ネパールで撮影した写真やビデオを編集したDVDとテレビ放送を録画した『世界がもし100人の村だったら』を視聴した。DVDでは、1つの教室に大勢の子ども

たちが集まって勉強している場面や頭の上に重い荷物をのせて運ぶ人々の姿など日本とネパールとの違いや現地でボランティア活動を行っている日本人の様子などを紹介した。ビデオでは、エチオピアの少年、ロシアの少年兵、フィリピンの少女の暮らしが取り上げられていた。劣悪な環境の中で働き、学校にも行けない子どもたちの姿を見て、生徒たちは言葉をなくした。中には、涙を流しながら見ている生徒もいた。自分たちの生活とは全く異なる生活を送る子どもたちがいるということを知り、衝撃を受けている生徒が多かったようである。やはり現場の様子を知る手段として、映像の力は大きいと思った。

生徒の感想より

今回、このビデオを見て、
世界が平和になればいいのにと心の底から思いました。まだ10歳の子どもが学校にも行かず、あんなにきつい仕事をしている映像を見ると心が痛みました。私たちは満足のいく生活をして、いつも楽しく友達と話して、学校へ行ってわがままますぎると感じました。もっといろんなことに興味を持って、いろんな国の厳しさなどを知りたいと思いました。

3時限目 ネパールの子どもたち

はじめに、生徒が自分たちの持つ権利について学ぶ第一歩として、『欲しいものと必要なもの』の活動に取り組んだ。さまざまな意見を聞きながら自分の考えを深めたり相手の意見を尊重したりする態度を育てるため、常にグループで活動を進めることにした。ワークシートのリストに挙げられた項目が「欲しいもの」か「必要なもの」かに分けることを通して、生徒たちは人間にとって生きていくために必要なものは基本的な権利であるということを学習することができた。

最後に、そうした基本的なことが手に入らない国や地域があることについて話した。ネパールの人々の平均寿命、識字率、水の大切さ、子どもたちが学校に通えない理由など、生徒たちはみんな真剣な表情で話を聞いていた。

生徒の感想より

今日の授業で、いざ欲しいものを
考えてみると難しかったです。最後の話を聞いて今の私たちが「欲しい」なんて思うこと自体ぜいたくなのだと感じました。将来大人になった時、自分の欲を満たすだけじゃなく協力し合える人になりたいです。

今、世界では今日を必死で生きている人がいるから自分も負けないように今日を生きようと思った。

せっかく与えてもらった命を大事にしたいと思った。大人になったら、青年海外協力隊などに入り、援助したいと思った。

4時限目 世界の子どもたちはどんな生活をしているのだろう

これまでの学習を通して、生徒たちは世界の諸問題に関心を持ち、「もっと調べてみたい」という意欲が高まってきた。そこで、図書館とパソコン室を利用し、これから取り組む調べ学習のテーマ探しを行った。インターネットでJICAのホームページにアクセスし『ぼくら地球調査隊』を使ってテーマ探しを進めた。このホームページは生徒たちにとってもたいへんわかりやすく、国際理解教育に役立つ内容だった。この授業を通して次のようなテーマがあげられた。

◎貧困 ◎国際貢献 ◎生活環境 ◎平和
◎教育 ◎医療 ◎差別 ◎世界の子どもたち

5・6時限目 世界の諸問題について調べよう

4～6人でグループ編成を行い、自分の調べてみたいテーマについて調べ学習を行った。図書館の本とインターネットを通して、さまざまな資料を集めることができた。インターネットでは、主にJICAの『ぼくら地球調査隊』とユニセフのホームページ『子どもと先生の広場』を利用した。ただ単に自由に検索するよりもテーマについてより深く追究することができたと思う。

7～11時限目 調べたことを壁新聞にまとめよう

各グループで調べたことを壁新聞にまとめることにした。見出し・レイアウト・記事の内容など、自分たちのアイデアを出し合って壁新聞作りに取り組んだ。お互いに協力して準備を進めていくうちに考えを練り合う場面も見られるようになり、内容の充実した壁新聞を完成させることができた。

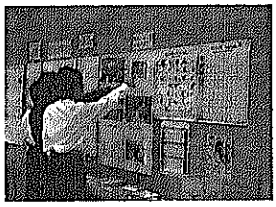
壁新聞

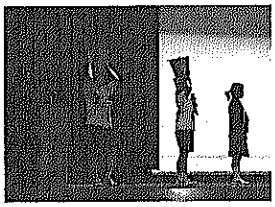
12時限目 講座内で発表

1グループ5分で調べた内容について発表を行った。わかりやすく発表するために3択クイズを入れたり、模型を作ったりするなどの工夫が見られ、他の班の発表を通して情報交換を行うことができた。そして、すべてのグループの発表の後、文化祭で発表するグループを決定した。

13時限目 文化祭で発表

講座内で代表となったグループが文化祭で発表を行った。テーマは『国際貢献』。ODAや青年海外協力隊について調べたことを工夫して発表することができた。「青年海外協力隊は発足当時、何人だったでしょう？」「毎年、ユニセフに募金しているサッカーチームはどこでしょう？」などのクイズや学校に通えない子どもたちの様子を寸劇で紹介した。寸劇を作るときには『ぼくら地球調査隊』を参考にし、準備にも意欲的に取り組んだ。


ネパールの紹介 展示


ステージ発表 寸劇

寸劇のシナリオ『ぼくら調査隊』

調査隊（先生役）	今日は世界の子どもたちの様子について調べてみましょう!ここはアジアのとある国です。
調査隊（生徒役）	あれっ、あそこで農作業をしている子どもたちがいるよ。君たち、何をしているの?
現地の子どもA	家族のために働いているんだよ。ぼくたちが働かないとご飯が食べられないからね。
調査隊（生徒役）	えっ?学校には行かないの?
現地の子どもB	そんなの行けないよ。本当は行きたいけど、お父さんもお母さんも働いているから弟の面倒も見なくちゃいけないし…。
調査隊（生徒役）	あっ、あの子たちは何をしているんだろう。何をしているの?
現地の子どもC	水汲みをしているの。
調査隊（生徒役）	お家に水道はないの?
現地の子どもD	水道?そんなものないよ。毎日、水汲みをするのが当たり前だよ。私たち、本当は学校に行きたいの!
現地の子ども	ぼくも!（わたしも!）

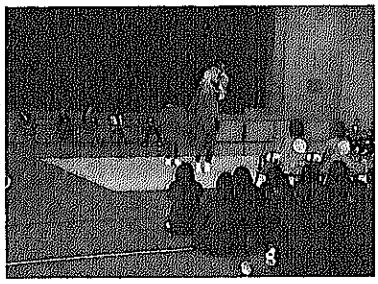
14・15時限目 世界の人に学ぶ会

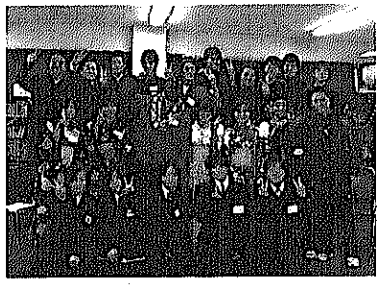
国際理解講座の生徒たちは、これまでの学習のまとめとして、『世界の人に学ぶ会』の企画・運営を行った。愛媛県国際交流センターを通して中学校を訪問してくれたのは、タンザニア、ガーナ、スリランカ、バングラデシュ、フィリピン出身の6名のゲストのみなさんである。

まずはじめの全体会では、日本文化の紹介として代表生徒が剣道の形、獅子舞を披露した。次に、茶道部の生徒によるお茶のおもてなしの後、分散会に移動して20名程度のグループで詳しくお話を聞かせていただいた。

私の担当したスリランカグループでは、ゲストの方がパワーポイントを使って食生活や住まい、学校生活の様子などを説明してくださった。生徒たちはみな写真に興味を示し、真剣に話を聞くことができた。生徒が準備したゲームを通して楽しく交流することもでき、たいへん充実した活動になったと思う。

また、バングラデシュ出身の方は日本とバングラデシュの違いについて話をしてくださった。日本の子どもたちはみんな義務教育を受け、毎日栄養のある給食を食べることができる。これはとても恵まれていることなのですよ、と話をしてくれた。これまで学習してきた世界の諸問題について、実際に話を聞くことのできる貴重な機会となった。


獅子舞


スリランカグループ

生徒の感想より

ぼくはバングラデシュの国のお話を聞きました。講師の方がはじめに言っていた日本の学校の制度や給食、日本の健康保険の良さが印象に残りました。バングラデシュでは義務教育という制度があるけど、学校に行けない、学校に行かせられない家庭があると言っていました。いくら本やインターネットで調べても、実際に話を聞くとその国のことがよく分かり、とてもよい体験ができました。

スリランカのあいさつの仕方を教えてもらいました。国旗についても教えてもらいました。仏教の国らしく特色が出ていたと思います。ぼくは分散会でお礼の言葉をやらせてもらいました。外国の方と1対1で話すことのできるチャンスでした。自分の気持ちを何とか伝えられることができてよかったです。自分の言いたいことが伝わったときはとてもうれしい気持ちになることがわかりました。自分の気持ちを相手に伝えようとすることが国際社会では必要なことではないかと思いました。

普段、クラウス先生(ALT)以外の外国の方々に会える機会はめったにないので今日の「世界の人に学ぶ会」はとても有意義な時間になりました。他の国の文化を学び、考えを深めるだけでなく、自分の国のことを他の国の人々に発信することができて、本当によかったと思います。

成果と課題

2学期は、ネパールでの研修を通して学んだことを生徒たちにどのように伝えていくか、最も効果的な方法を考えることから始めた。ネパールで体験してきたことをできるだけたくさん伝え、生徒が主体的に学習に取り組むための動機付けにしたいと考えた。総合的な学習の時間のねらいに即し、異文化理解を深める段階から国際貢献をしようとする態度の育成まで、具体的な授業案を考えることは本当に難しかったが、校内でいろいろなアドバイスをいただくこともでき、何とか授業を進めることができた。

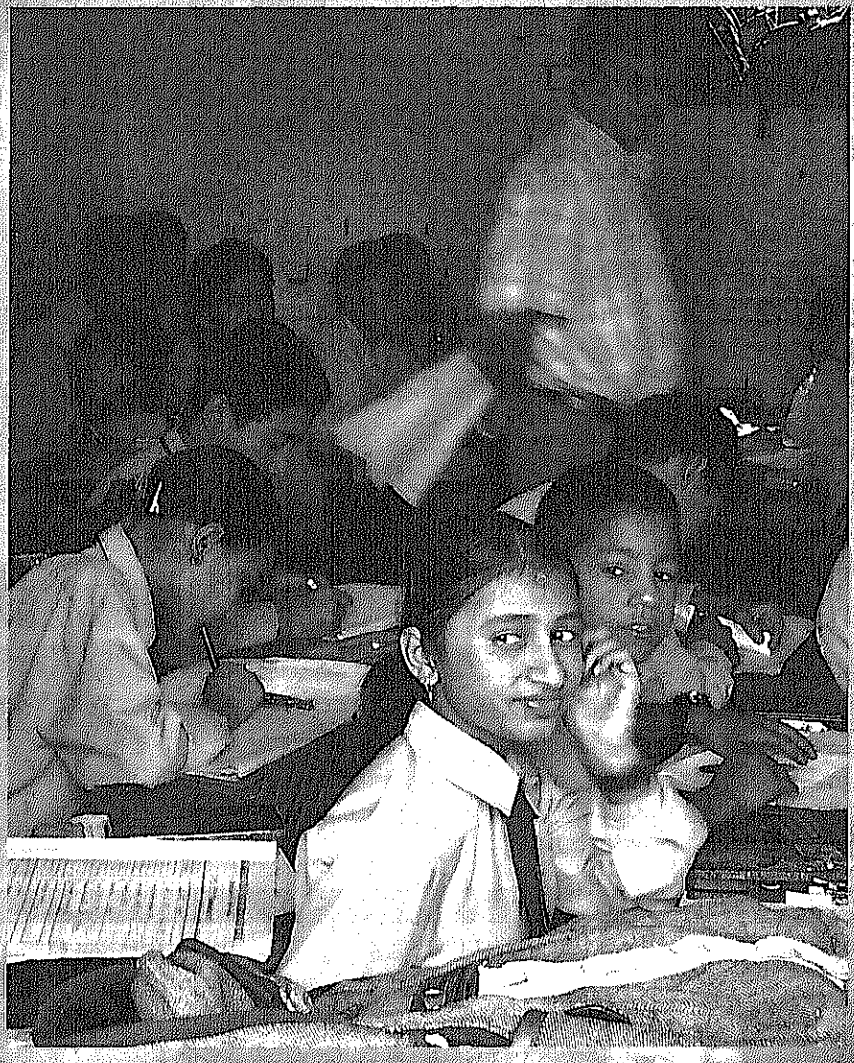
成果としては、視聴覚教材の活用を通して生徒の興味・関心を引くことができたこと、課題の設定からまとめまで段階を追った指導に取り組んだことがあげられる。特に、自分がネパールで見たり聞いたりしたことを正しく伝えるために、視聴覚教材作りに力を入れた。写真を使いクイズ形式でネパールを紹介するパワーポイントの作成、さらにビデオの音声も取り入れ、写真と動画を組み合わせたDVDの作成に取り組んだ。このような視聴覚教材を用いることによって、生徒の興味・関心も高まり主体的な学習へのきっかけを作ることができたと思う。また、単発的な授業ではなく単元として取り組んだことによって、よりねらいに近づくことができたのではないかと考える。

授業案作りや実践を通して、新たな発見をすることや刺激を受けることもあった。ネパールについて話をしたときの生徒たちの素直な反応や新鮮な感想は、とてもうれしかった。「大人になったら青年海外協力隊に入ってみたい」や「自分の夢が広がりました」という声も聞かれ、ネパールでの研修に参加して本当によかったと思った。しかし、今回は私の担当している国際理解講座の生徒を対象にしたため、3年生の生徒全員がこの授業に取り組んだわけではない。年度当初の計画不足が大きな反省点としてあげられる。今後は、総合的な学習の時間において「国際理解教育」をより効果的に実践していくため、生徒の実態に即しねらいを明確にしたカリキュラム作りを課題としたい。そしてネパールでの研修を生かし、国際的な視野を持った生徒を育成できるよう日々研修に努めたい。

生徒の感想より

最初はネパールがどこにあるのかさえ知らなかったけど、この学習を通して多くのことを学びました。からからの砂が水を吸っていくような感じでした。世界の国は奥が深くてとてもおもしろいと思いました。これからいろいろな国の人と会ってみたいと思いました。

これまで私がイメージしていた世界は、豊かな暮らしをしている国ばかりでした。しかし、先生の話を聞いたり自分で調べたりしてみると、学校に行けなかったり働いたりしている子どもたちがいました。貧困について調べてみて、世界の人たちを貧困から救いたいと思うようになりました。自分の夢が広がりました。



研修を活かした授業実践例

【高等学校・高等専門学校 編】

教師および生徒の原文を生かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますが、ご了承ください。

Nepal 05

ネパールを題材に「キャリア教育」を考える

安藤　千速
高知県立高知丸の内高等学校

◎実践教科等／理科・高大連携にかかる教科・総合的な学習の時間
◎時　間　数／14時間
◎対 象 学 年／高校1、2、3年生
◎対 象 人 数／1年生175名・2年生33名・3年生23名

目の前の生徒の現状を踏まえて、高校生が今必要なことや伝えたいことを明確にした上で、組み立てられた授業でよかった。ネパールの子どもの声を聞かせることで、生徒の関心を上手に高めている。

カリキュラム

次の複数の方法により、研修の成果を高校生に伝達した。

【実践の目的】

○その1［1年生5クラス175名］　○その2［2・3年生34名＋3年生11名］

・アジアの最貧国と呼ばれるネパールの人たちの暮らしを紹介することで、自分たちが恵まれた環境で暮らしていることに気付かせる
・物質的に豊かではないネパールの子どもたちの夢を紹介することで、志を立てることのすばらしさに気付かせる

○その3［2・3年生5名］

・限られた情報から多くのことを受け取り、ほかの人たちと協議することを通じてコミュニケーション能力と論理的な思考を養う
・ネパールの実情を題材に、表層にとらわれずに課題を分析する能力を身につける

○その4［3年生3名］

・ネパールの実情を題材に、表層にとらわれずに課題を分析する能力を身につける
・積極的に活動する高校生に会うことで、自分の考えや気持ちを行動化する機会を作る
・課題に対して自分ができることを考えることにより、日常生活へのリフレクションを得る

授業の構成［その1］

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ネパールの人たちの暮らし 子どもたちの夢と学ぶことの意義	トリブバン空港の印象 交通渋滞の様子 ホームステイ先の水事情 学校であった子どもたちのコメント ホームステイ先に奉公に来ていた子どものコメント	・Power Point （撮影してきた写真を提示）

授業の詳細

1年生に対しては、これからの高校生活を有意義なものにしていくために、自分の将来を思い描き、志を立てる気運を養うことを主眼にして、ネパールでの見聞を伝達した。高校生が対象なので使用機材はPowerPointのみとし、ネパールで800枚撮影した写真から効果的なものを提示しながら経験を話す方法をとった。

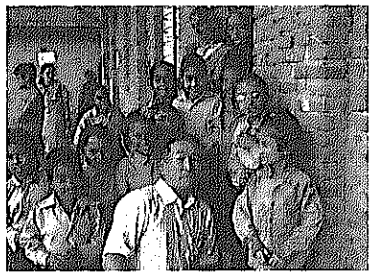
まず、国境線が入ったアジア地図を見せて、ネパールのほか、途中経由したタイ、最近の報道で取り上げられる機会が多いミャンマーやアフガニスタン、そのほかの各国の位置を確認し、関西空港から洋上を飛ぶとベトナム上空にさしかかることを確認した。投げかけに対して生徒からはさかんに反応が返り、こういった話題に対する関心が低くないことをうかがわせた。

次に外務省の海外安全情報HPを見せることで、この国の政情がさほど安定していないことを伝え、日本では当たり前のように感じる安全がタダではないことに気付かせた。また、狂犬病の話題で防疫上の観点でも日本は恵まれていることを確認した。

ネパール到着後のトリブバン空港で私たちを出迎えたチップ目当てに群がる子どもたちや、交通渋滞とクラクション騒音、ホテルの黄色い水などを紹介し、安全と同様に、私たちが日常いかに恵まれた環境で暮らしているかを理解させた。

ネパールの学校に訪問したときの子どもたちのコメントを顔写真付で紹介した。小学校5年生相当の年齢の子どもが「この国は病気の人が多いから、その人たちを助けるために医師になりたい」、「近くのインドで水害が起きて大勢の人が亡くなったから、国家の役に立てるように軍隊に入りたい」、「国家の平和と発展のためには教育が必要なので、先生になりたい」と言ったことを伝えた。平和で豊かな環境で学ぶ自分たちがさして志を持っていないことに気がついたことと思う。

カトマンズの小学生たち


カトマンズの小学校で

生徒の反応

貧しい、汚い、不便、衛生状態が
良くない、貧富の差が激しい、かわいそう、自分だけのことでなく国全体を考えている、学校へ通うことの大切さ、みんな頑張っていると思った、などの反応が寄せられた。

〈所感〉

この国の表面的な印象を一様にあげながらも、精神性の高さをきちんと読み取っている。題材の持つインパクトの強さが効果的であったと考えられる。

❖授業の構成［その2］

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	**ネパールの人たちの暮らし** 子どもたちの夢と学ぶことの意義	トリブバン空港の印象 交通渋滞の様子 ホームステイ先の水事情 学校であった子どもたちのコメント ホームステイ先に奉公に来ていた子どものコメント	·Power Point （撮影してきた写真を提示）
2	**タイの様子**	バンコクの印象 ODAの使い方とタイの戦略	·Power Point （撮影してきた写真を提示）

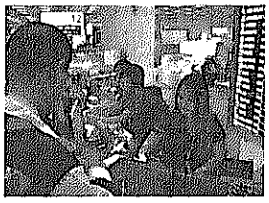
❖授業の詳細

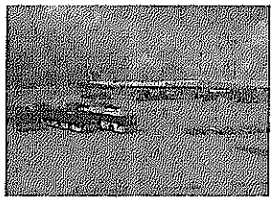
1年生に展開した内容に加えて、途中経由し1泊したタイのバンコクの印象を紹介した。
バンコクの空港は羽田空港や関西空港と似たような雰囲気を持ち、きれいで安心することができるところだった。タイ・エアーの使用機材も最新できれいに使われており、整備もおそらく行き届いているであろうと思わせた。空港で働いているのは英語が上手な若者ばかりであった。空港から市街地へのアクセスもよく考えられており、幅の広い高速道路、建設中のモノレールなど計画的に整備されていっていることをうかがうことができる。バンコク市街地も地下鉄や高架鉄道など快適で十分な交通網を整備しようとしていることが分かる。しかしながら、市街地で暮らす庶民はネパールと変わりない貧しさでスラム街と呼んでいいところで生活をしていた。狂犬病が蔓延し、水道水を飲むことが出来ないこともネパールと同じである。

さほど変わりない両国の庶民の暮らしに対して、バンコクの空港とその周辺だけがやけに立派なことが目に付く。空港も地下鉄も日本のODAで作ったらしい。アジアのハブ空港としての役割を担うことで、国家の経済を成り立たせていこうとするタイの戦略が良くわかった。10年経ったら、両国の発展には差が出てきていると思う。

生徒の反応

ホームステイをしたときのトイレ
事情など、笑いながら聞くことができる内容が多く含まれているので興味深げに聞いてくれた。1年生を対象にしたときと同様に、表面的な部分にとらわれることない反応がみられた。勉強に対する子どもたちの意識の高さだけでなく、実はカースト制が背景にあり職業選択の自由度に対する懐疑的な視点など、奥行きの深い反応を得ることができた。


バンコクの印象

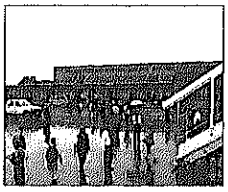

バンコクの空港

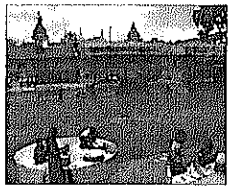
〈所感〉

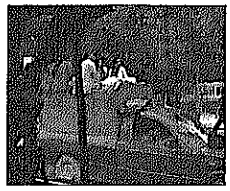
このメンバーには出発前にデジタルカメラを買った話など、ネパールに対する期待感を伝えてあったので、事後報告に対するレディネス（受け入れ準備）は高かった。生徒には何を犠牲にして、何を優先させるかというストラテジー（戦略）の大切さを感じてもらえたと思う。

❖授業の構成［その3］

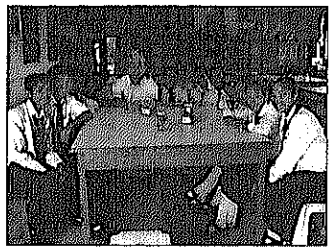
時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2	ネパールってどんな国	5枚の写真を配り、それぞれが持ったネパールの印象を話し合う ・トリブバン空港の印象　・交通渋滞の様子　・市民の水事情 ・ヒンドゥーの寺院　・古都パタンの風景	・写真5枚 （ネパールの印象）







3・4	子どもたちはどんな顔	5枚の写真を配り、それぞれが持ったネパールの子どもの印象を話し合う ・カトマンズの小学校　・学校であった子どもたち ・ホームステイ先に奉公に来ていた子ども　・孤児院であった子ども 日本-ネパール国交50周年VTRを見る	・写真5枚 （ネパールの子どもたち） ・VTR



❖授業の詳細

少ない人数ではあるが、学年が混ざっていることもあり、5名の会話は少ない。受動的な姿勢が強く、思考し、自分が考えたことを話し合うことができるようになることが課題である。そこで、それぞれに1枚ずつ写真を渡し、その写真から読み取ることができる「ネパール」をあげさせた。その後、それぞれが読み取った「ネパール」を話し合わせ、5名で一つのネパール観を作らせた。配布する写真は、なるだけ異なる印象を持ちそうなものを選び、5名の印象を統合した時にこの国がやや立体的に捉えられるだろう事を期待した。

2時限目は、同じ手法を使いながらも、ねらいの二つ目に近づくために、民族、宗教の多様と、発展の手段として不可欠な英語の存在を感じさせるように工夫した。発展がややもすると文明のホモジナイズ（均質化）になりかねないことや、支援がそこで暮らす人たちの必然から生じていないと利己的な文明輸出につながりかねないことを話し合い、支援の難しさから立場を変えて考えることの大切さを考えさせた。

生徒の反応

生徒たちは、ネパールそのものについてだけでなく、それぞれの立場や協力の難しさを感じている。

〈所感〉

少人数でじっくりと時間をかけられることもあり、分析の深みが異なる。支援という語句を通じてさまざまな事象を多角的に考える機会になったと思う。

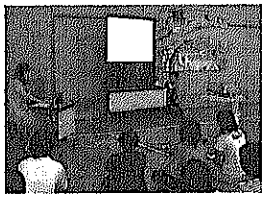
❖授業の構成［その4］

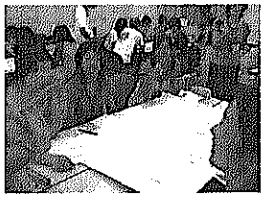
時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ネパールってどんな国	撮影してきた写真を見て、それぞれが持ったネパールの印象を話し合う ・トリブバン空港の印象　・交通渋滞の様子 ・市民の水事情　・ヒンドゥーの寺院 ・古都パタンの風景	・写真約300枚
2〜	2泊3日間	・JICA中国主催 高校生国際協力体験プログラムに参加	・トピ（民族衣装）

❖授業の詳細

帰国後にすぐネパールの写真を見せて、この国に対する印象を話し合わせた。このメンバーはあらかじめ東広島で行われる高校生国際協力体験プログラムに参加することが決まっており、そこでの題材が偶然ネパールであることがわかっていた。

高校生国際協力体験プログラムの詳細は、JOCA中国HP（下記アドレス）に委ねるが、
http://www.joca.or.jp/chugoku/JICAivent/koukousei/koukouseipu-y.html
プログラムは、世界を知り、自分に何ができるか考えるといった実践的な内容で、参加したのは私が提供した題材を最も深く分析することができるであろうメンバーである。


ネパール、パラシ村の課題発見


他校生徒と活動する生徒

生徒の反応

何ができるのかを考えた時に、
現状の自分ができる直接的な国際貢献が少ないことに気付いた。それよりも、身の回りにある文房具などを大切に使うというように、日常を大切にすることの意義を指摘しあっていた。

〈所感〉

等身大の視線を失わないところが、このメンバーの錬度の高さと考えている。高校生の今、急いで何をしだすかよりも、何かができるようになるための自分を構築する事を大切にして欲しい。

プログラム終了後に地元のラジオ番組に出演する機会があった。私が持って帰ってきたネパールでの体験と、このプログラムに参加して得たものとを統合することで考えるようになったことをマイクの前でしゃべる生徒たちに、大きな成長を感じてうれしかった。

❖成果と課題

生徒たちには、「ねらい」としたことはよく伝わっている。また、高校教育がその瞬間だけでなく、3年間という時間をかけて行われることの成果であることを考慮すると、これから過ごす時間が長い1年生全員に学ぶことの意味や将来を考えることの意義を伝える機会をもてたことは大きい。

この経験を通じて、教壇に立つものとして常に進取の姿勢を失わず、このような体験を生徒に伝え、高知県の教室にいながらにして生徒たちの意識を世界中に案内する努力の重要性と楽しさを感じた。定期的、周期的に各国の情報を提供することで多角的な視野を養い、そこで働く日本人の姿を自分の将来像に結びつけることができるようになると、キャリア教育の成果がでたといえよう。

写真を説明する筆者

Nepal 06

ネパールの現状から学ぶ

田村　芳貴
愛媛県立伊予農業高等学校

◎実践教科等／ホームルーム活動、進路探求
◎時　間　数／8時間
◎対 象 学 年／高校1年生、2年生
◎対 象 人 数／高校1年生200名、2年生39名

専門的な知識や技術を通して、生徒に考えさせる流れがよかった。
先生自身の実際の体験をそのまま伝えており、
全ての題材が課題解決の授業につながっている。

※カリキュラム

【実践の目的】　本校は愛媛県高等学校国際教育研究協議会の事務局を務めている。その関係で、毎年、留学生の意見発表や各校の研究を発表する研究発表会が本校で開催されている。その時に、進路探求（総合的な学習の時間）の一環として本校の1年生が全員聴講することになっている。研究発表会に参加することで、生徒は外国への関心を高めているのは事実であり、国際理解を深めるのに良い機会となっている。しかし、現在、本校が全体として取り組んでいるのは、1年生の研究発表会への参加だけであり、それ以後の国際理解教育は、各ホームルームに任せられているか、国際教育部など一部の生徒だけの活動で終わっている。つまり、せっかく国際理解に興味を持ったとしても、深化されていないのが現状である。そこで、今回の実践では、生徒たちに私が体験したネパール国の現状を紹介することで、自分たちとの生活や文化の違いを理解させること、また、日本がネパールに行っている支援の現状を学び、自分たちがこれからできることを考えさせること。そして、外国への関心を少しでも高めて、国際理解教育を進めていくきっかけとなることを目的とした。

※授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	**ネパールを知っているか? JICAを知っているか?** 実践授業を実施するにあたり、生徒たちの理解度を把握する	・10日間の研修について簡単な報告 ・ネパールとJICAについて生徒の理解度を知るためにアンケートをする	・ネパールの帽子、紙幣 ・旅の指さし会話帳 ・アンケート用紙
2・3	**ネパールを知る** ネパールの現状を見せて、自分たちとの違いを理解させる	・ネパールの現状を知る ・ネパールの様々な写真を見せて、ネパールと日本の生活や文化の違いについて考える	・パワーポイント資料 ・旅の指さし会話帳 ・DVD ・ワークシート
4	**ネパールの教育** ネパールの教育、学校現場の現状を知り、自分たちの学校生活の違いを考えさせる	・ネパールの教育システムを知る ・ネパールの学校の写真を見せて、学校の様子や授業風景など教育の現状を知る ・学校の様子や子どもたちの様子を見て、自分たちの学校生活はどう思うか考える	・パワーポイント資料 ・研修中配布資料 ・ワークシート
5	**写真からわかるネパールの現状** フォトランゲージを行い、ネパールの現状を理解させる	・写真を見せて、その写真から思い浮かぶこと、考えられることを話しあう ・同じ写真でも人によって考え方や感じ方が異なることを知る	・写真 ・パワーポイント資料 ・ワークシート
6	**ネパールを知る（1年生全員）** ネパールの現状を見せて、自分たちとの違いを理解させる	・ネパールの現状を知る ・日本との生活や文化の違いを理解する	・パワーポイント資料
7	**ネパールの農業の現状** ネパールと日本の農業の違いや共通点について理解させる	・ネパールの農業について知る ・園芸プロジェクトについて知る ・ネパールの農業をより良い方向にする方策を考える	・パワーポイント資料 ・ワークシート
8	**国際協力、支援についてまとめ** 国際協力や支援のあり方について考えさせる	・ネパールにおける青年海外協力隊の現状を知る ・今までの授業を踏まえて、自分たちにできることを考える	・パワーポイント資料 ・ワークシート

❖授業の詳細

1時限目 ネパールを知っているか? JICAを知っているか?

この時間は夏期休業が明けてすぐのホームルーム活動の時間であったため、ネパールの帽子(トピ)を被り、お土産を手に、10日間の研修についてネパール語を交えながら報告をした。

また、これからの実践授業の導入として、現在高校2年生の生徒たちがどれくらいネパールという国を知っているのか。ネパールについてどのようなイメージを持っているのか。また、ネパールではほとんどの人々が「JICA」について知っていたのに対し、私のクラスの生徒たちは「JICA」をどれくらい知っているのか。国際教育についてどれくらいの生徒たちが関心を持っているのか、とても興味深く思い、アンケートを実施した。

トピをかぶる生徒

1時限目に実施したアンケートの結果

(対象生徒/園芸流通科2年生39名に実施)

【質問1】ネパールという国を知っていますか? 聞いたことがありますか?
●はい/35名(90%) ●いいえ/4名(10%)

【質問2】1で「はい」と答えたなかで、ネパールがどこにあるか知っていますか?
●はい/5名(14%) ●いいえ/30名(86%)

【質問3】「JICA(独立行政法人国際協力機構)」を聞いたことがありますか?
●はい/6名(15%) ●いいえ/33名(85%)

【質問4】日本が国際協力をおこなう理由を答えてください。
・日本に何かあったときに助けてもらうため(7名)
・日本は先進国で、経済力があるから(5名)
・昔、日本はいろんな国が援助してくれたから(3名)
・その他(5名)
・わからない、無回答(19名)

【質問5】将来、国際協力に貢献できる人になりたいですか?
●はい/16名(41%) ●いいえ/23名(59%)

【質問6】5で「はい」と答えた人で、具体的にどのようなことをしたいですか?
・募金(10名)
・物資の援助(4名)
・理解を深める(2名)

〈所感〉

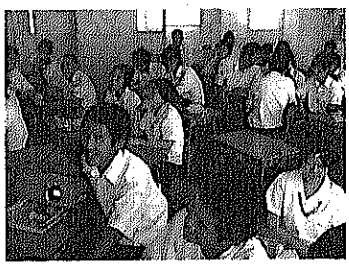
ネパールから帰国して、夏期休業明けすぐの時間にさっそく実践授業を行った。記憶も鮮明であったため、あれもこれも話してしまったが、生徒たちはとても興味深く聞いていた。アンケートの結果を分析すると、ネパールを聞いたことがあるが、正確な場所はわからない。ネパールの人々は「JICA」をよく知っているのに、私のクラスの生徒たちはほとんど知らない。日本が国際協力を行う理由は、授業等で教わったためか、何となく理解しているが、将来自分が国際貢献をしたいかどうかというと、「はい」と答える生徒は少ないのが現状であった。

国際協力や国際理解については現時点ではあまり関心が無いように思えた。しかし次回からのネパール講座を楽しみにしているようであった。今後の授業はこの結果を踏まえて、生徒たちにネパールを紹介し、日本以外の国の生活や文化の違いなどの状況を知ってもらい、異文化理解など視野を広めていきたいと思った。

2・3時限目 ネパールを知る

前回の実践授業は話だけの説明だったので、今回はパワーポイントでプレゼンテーション資料を作成し、写真や動画を取り入れながら、ネパールの現状、日本との関わり、生活や文化、10日間の研修先のおおまかな様子を2時間かけて紹介した。ネパールの衣、食、住、カトマンズ市内や地方の風景をみて、日本とネパールの生活や文化の違いを考えさせた。

指さし会話帳の説明中



興味深く聞いている生徒

生徒の感想より

話以上に写真や動画でみるネパールはすごいと思った。

日本以外の国の状況を初めて見て、とても驚いた。

世界にはいろいろな国があり、生活や文化の違いがよく理解できた。

トイレの様式の違いが一番驚いた。考えられない。

牛が道路に普通にいることがありえない。

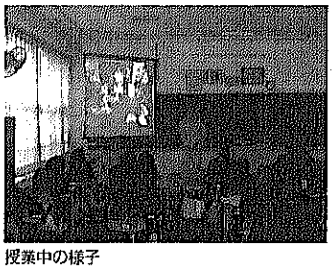
首都の道路事情がとても騒がしく、すごかった。私は生きていけないと思った。

〈所感〉

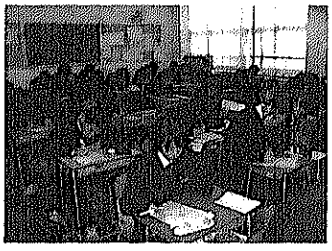
写真や動画などを取り入れて、生徒たちにネパールの紹介をしたため、以前よりもかなり反応がよかった。生徒たちもそれなりに理解を深めていたようである。自分たちの知らない世界を知って、少しでも興味を持って、視野を広げてくれればよいと思う。しかし、ネパールの現状を見て「かわいそうだ」「危険な場所だ」「貧しい国だ」など、明らかに自分たちが上の立場の目線で感想が書かれており、今後はそういった目線ではなくて、異文化理解や途上国の現状を理解することの大切さを教えていかなければならないと思った。

4時限目 ネパールの教育

今回の授業はネパールの教育状況に焦点を絞り実施した。クイズを取り入れて教育の現状を紹介することで、ネパールの教育における様々な課題を考えさせるとともに、自分たちの学校生活との違いやこれからの自分たちの教育の受け方を考えさせる良い機会となるようにした。



授業中の様子



教育の課題を考えている生徒たち

生徒の感想より

ネパールの小学校は義務教育ではないが、授業料が無償なのが意外であった。

就学率や識字率が100%でないこと、子どもたちに教育が行き届いていない現状に驚いた。

日本は施設設備など様々な面で恵まれているが、自分たちは教育を受ける態度が良いとは言えない。もっと世界の現状を考えなければならない。

ネパールの子どもたちの素直な笑顔に感動した。私の表情はあそこまで明るくない気がする。

欲しいものは何かと聞かれて「教育」と答えたことに驚いた。自分はありえない。

いいかげんに学校生活を送っている自分がとてもはずかしくなった。

〈所感〉

自分たちと年齢が違っていたものの、ネパールの学校の現状を見て、ものすごく衝撃を受けていた。生徒たちはとても真剣な態度で授業を受けることができており、何らかの形で印象に残った授業であると思う。自分たちは何不自由無く学校生活を送れる環境にあるにもかかわらず、その恩恵を十分に受けることができていないという現実を理解できたようである。また、私たちの生活が当たり前でないということを理解し始めてきたようである。

5時限目 写真から分かるネパールの現状

今までの実践授業では講義形式が主であったが、今回は生徒主体の授業とし、体験学習法のフォトランゲージを取り入れた。2枚の写真をそれぞれ見せて、グループ毎に話し合いをし、それぞれの写真からわかることを発表させた。この授業では写真からわかるネパールの現状を理解するとともに、同じ写真であっても、人それぞれ異なった観点を持っていることや、ものの見方や考え方の違いに気づかせることを目的とした。

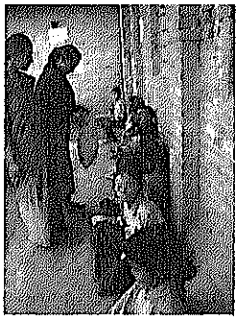


写真1…小学校での給食を配っている時の様子

写真2…公共水道で出会った老夫婦

まとめたことを発表中

生徒の反応

それぞれの写真を見せて、
写真1については「この子どもたちは何をしているところか」という問いに対し、写真がわかりやすかったらしく、ほとんどのグループが「何かをもらって食べている」という解答であった。写真2については「この老夫婦はどのような人たちで、何の用事でここに来ているのか」という問いを投げかけた。公共水道に来ていることなどの条件は一切話さず、ただ写真を見て思うことを発表させた。予想通り、写真2については意見がわかれ、「裕福な人で買い物に来ている」「商人で物を売りにきている」など両極端な答えが返ってきた。正解したグループはさすがにいなかったが、解説を聞いてほとんどの生徒が衝撃を受けていた。

生徒の感想より

ネパールは政治が不安定であることがよくわかった。

写真を見て自分なりの考えを言ってみたけど、グループのみんなとも違うし、答えも全く違っていた。思い込みや偏見は恐ろしいと思った。

日本では考えられない生活をしていることがさらによくわかった。

写真だけの一面で判断することの難しさを学びました。

今までの授業に比べて、自分たちでよく考えたのでとても印象に残りました。

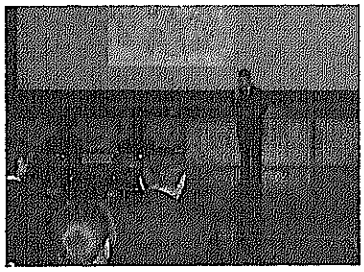
人によっていろいろな意見があることに驚いた。これからはいろいろなところで気をつけたいと思う。

〈所感〉

今までは講義形式だったので、初めて生徒主体で行うことに多少の不安はあったが、生徒の感想をみる限り、私が思っていたよりも、今まで以上に生徒たちに与える効果はあったのではないかと思う。解説を聞くときの生徒の表情はものすごく真剣であった。ただ、もっと生徒たちの話し合いや発表を活発にするために、ただ話すだけでなく、ポストイット等を用いて書いたことをもとに話し合いを進めていくべきであった。高校2年生で、来年は進路決定の年であるため、いろんな人と話し合いをすることは大丈夫であろうと思っていたが、まだまだ現状は足りないことがよくわかった。

6時限目 ネパールを知る
（本校1年生及び研究発表会参加者対象）

本校にて愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会が実施されたため、審査時間の合間をいただいて、「ネパール報告」と題して発表をした。内容は以前クラスの生徒に実施した「ネパールを知る」を縮小したものであったが、時間が少なすぎて十分に伝えきれなかった。しかし、生徒の反応や感想は、「おもしろかった」「もっと聞きたい」「日本と全然違う生活に興味を持った」など、意外に多くの興味深い反響があった。改めて時間をとって実施し、異文化理解を深めたいと思った。

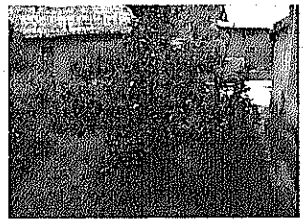


話をしている私

7時限目 ネパールの農業の現状

ネパールの農業の概要と研修で訪れた果樹園の様子を中心に生徒たちに紹介した。その中で園芸プロジェクトによる日本の農業との関わりを理解させるとともに、自分たちが今学んでいる「果樹」とネパールの「果樹」の違い、見学した2軒の農家の違いを考えさせた。そして、そこから問題点を発見させて、どうすればそれらの問題が解決し、ネパールの農業は良くなっていくのか、生徒たちの目線で考えさせた。

また、農業の分野で活躍する青年海外協力隊にも触れて、自分たちの学んでいることが将来、国際協力に役立つことを教えた。



1軒目の農家のナシ

2軒目の農家のナシ

生徒の反応

生徒たちが普段食べており、本校果樹園においても栽培しているナシの「幸水」「豊水」やカキの「禅寺丸」などが、ネパールにあると知った時、ものすごく驚いていた。また、現在日本では農業従事者がものすごく少なくなっているのに対し、ネパールは8割の人が農業従事者であると知り、このことについても非常に驚いていた。

2軒の農家の様子を見比べて生徒たちにいろいろな違いや問題点を考えさせたところ、生徒なりに様々な問題点を出してきた。多くは「なぜ栽培管理をきちんとしないのか」ということであったが、日本とは価値観が違うために摘果や剪定などをきちんと行わないということを知ると、不思議に思っていた。

さらに、一歩踏み込んで生産した後の流通についても生徒たちの意見を聞いたところ、大半は日本と同じように車などで街へ運ばれているというものであったが、実際を話すと、生産面だけでなく、道路整備など周囲の環境面の改善など、ネパールの農業は多くの課題を抱えていることを認識していた。

生徒の感想より

- ネパールの農業従事者が非常に多いことに驚いた。
- 1軒目の農家はいろんな作物が植えられており、作業がやりにくそうであった。
- 2軒目の農家は儲かっていることがよくわかった。
- 日本の品種が導入されていることに驚いた。
- きちんと管理をすればそれなりの果実が生産できるのにと思うが、世の中いろんな価値観があることわかった。
- そう簡単に良くはならないようだが、少しでもネパールの農業が良くなってほしい。

〈所感〉

今回の実践授業では、生徒が普段学習していることと関連させた内容で実施することができた。果樹園の写真を見て様々な問題点を見出し、それについて改善策を考えたことで、ネパールの果樹の状況や果樹に対する価値観の違いが理解できたことはもとより、生徒それぞれが果樹の経営について考える良い機会となった。また、普段自分たちが学習している内容が、将来国際協力に貢献できることを伝えたことで少しでも多くの生徒が国際貢献に関心を持ってもらえればよいと思う。

8時限目 国際協力、支援についてまとめ

今まではあまり多く紹介していなかった、青年海外協力隊など現地で活躍しているJICAの人々の紹介をし、日本人の活躍の現場や、支援のあり方について考えさせた。また、これまでのネパールの授業を通じての感想を書かせた。

授業全体を通じての感想　生徒の感想より

- 日本はとても恵まれていることがわかった。しかし、このまま何もしないわけにはいかないと思った。
- 同じアジアなのに、生活も文化も全然違うことがよくわかった。
- これからはもっと世界に視野を広げて、いろんなことを知っていかなければならないと思った。
- 恵まれた環境にある私たちはもっと世界に目を向けるべきだと思った。
- 世界が平等に生きていける環境になればよいと思った。

〈所感〉

様々な日本人の活躍の様子を見て、多くの生徒が何らかの刺激を受けていたようである。以前は、支援といえばただ資金面のことだけしか考えていなかった生徒が、それだけではいけないと言えるようになっており、この実践授業を通して成長したことを実感した。

※成果と課題

授業を通して、何らかの形で生徒たちが日本とは違う文化や世界に興味を持ったことは間違いない。実践の目的であった、まずは外国に興味関心を持ってもらうことについては達成することができたように思う。実践授業開始前はほとんどの生徒が、国際協力に対して関心が無かったが、授業を通じてネパールの現状を学び、多くの生徒が募金などの何らかの形で国際貢献したいと考えるようになった。その中の数人は将来、青年海外協力隊に参加してみたいと思うようになり、とてもうれしかった。これからは、ここで終わりにせず今後もあらゆるかたちで国際理解教育を進めていきたい。私自身ももっと勉強してもっと成長して、生徒たちの国際理解を深めていけるような教師になりたいと思っている。

また、今回の実践授業は私の受け持っているクラスの生徒を中心に行ったが、今後はクラスや学年などいろいろと幅を広げていきたいと考えている。時間数の関係で多く時間を確保できるわけではないので、少ない機会であっても内容をしっかり精選して、多くの生徒たちに国際理解を深めることができるように取り組んでいきたいと思っている。

参考資料

旅の指さし会話帳25ネパール　(情報センター出版局)
地球の歩き方 ネパール　(ダイヤモンド・ビッグ社)
研修中配布資料
外務省ホームページ　(http://www.mofa.go.jp/mofaj/)
JICAホームページ　(http://www.jica.go.jp/Index-j.html)

Nepal 07

日本の中の蛙、大海を知ろう!

川村 美千代
徳島県鳴門市立鳴門工業高等学校

◎実践教科等／①ホームルーム ②国語表現 ③部活動
◎時 間 数／①4時間 ②5時間
◎対 象 学 年／①高校1年生 ②高校3年生 ③社会問題研究部員
◎対 象 人 数／① 26名 ②49名 ③8名

すばらしい!

年齢を問わず、クイズや実物で楽しみながら紹介する方法は効果的だった。日本の常識は世界の常識ではない、ということを上手に伝える内容がすばらしい。

カリキュラム

【実践の目的】○ネパールの文化や習慣を知ることによって、他国への興味関心を深め、広く世界に目を向ける姿勢を持たせる。
○異文化に対する理解を深め、違いを認め尊重する態度や、多様な価値観を育む。
○世界の現状を知ることによって、日本の生活を客観的に見つめ、世界が抱えるさまざまな問題について考えさせる。
○世界で活躍する日本人がたくさんいることを知り、自分たちが身につける技術の尊さを自覚するとともに、自身の生き方について考えさせる。

授業の構成［ホームルーム］

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	知られざるネパールを知ろう!	①ネパールの国の概要や、文化、習慣などについて知る ②世界には知らないことがたくさんあることに気づき、驚いたことや印象に残ったことについて、意見を述べあう	・世界地図 ・パワーポイント ・ネパールで収集した写真、民族衣装、教科書、カレンダー等
2	ネパールと世界の水事情	①ネパールでの水道普及率や水くみの習慣、水質の問題などについて知る ②きれいな水の大切さについてグループで考える ③バーチャルウォーターの概念や、日本人の生活用水使用量などを知り、世界が抱える水資源の問題について考える	・パワーポイント ・ワークシート ・ネパールから持ち帰ったミネラルウォーターのペットボトル ・模造紙
3	ネパールの教育事情	①ネパールでの就学率や識字率、教育の現状などについて知る ②学校に行けない理由をグループで考える ③教育を受けることや学ぶことの意義についてグループで考える	・パワーポイント ・ワークシート ・模造紙 ・シール
4	世界の富	①世界の総所得の分配について理解する ②豊かなグループ、中間のグループ、貧しいグループに分かれ、それぞれの所得分の割合になるようにお菓子を分配する ③意見や感想を述べあう	・麦菓子（400g） ・量り ・「シャンパングラスの世界」の図 ・ワークシート

授業の詳細

1時限目 知られざるネパールを知ろう!

パワーポイントを用いて、クイズを交えながらネパールの文化や習慣について紹介するとともに、私自身の滞在中のエピソードなどについて話をした。

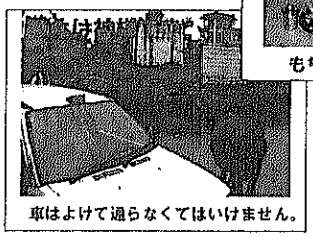
ネパールについては、国の名前は聞いたことがあるという程度で、場所などを知っている生徒はほとんどいなかった。しかし、国旗が四角形でないことを知っている生徒がいて脚光を浴びていた。世界一のヒマラヤ山脈や、釈迦の生誕地、世界遺産なども多くあり、世界各国からの旅行者も多いことを説明した。

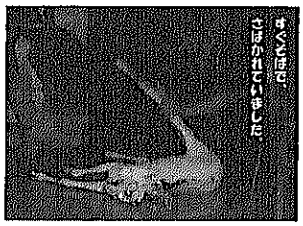
右手で食事をしている写真や、ヤギをさばいている写真を見て、食文化について考えさせた。手で食べることに対して始め嫌な顔をした者がいたが、箸を使う国もあれば、スプーンやフォークを使う国もある。同じように手で食べる国もあるという意見や、日本でもお寿司は手で食べるという意見が出て、何を使って食べるかに優劣はなく、文化の違いであることを認識した。ヤギをさばいている写真にも最初は嫌悪感を示した者がたくさんいたが、日本のように肉がパック詰めになって

売っている国の方が特殊であることに気づき、日本の常識が世界の常識ではないこと知った。

また、ネパールのトイレの写真を見せ、トイレ文化についても話し合った。用便の際、紙ではなく左手で拭くという話にはかなり衝撃を受けていた。しかし、食文化と同じような意見の流れになり、トイレットペーパーを使うか、水で洗うかは文化の差だという結論になった。異文化を認めることの大切さが理解できたのではないかと思う。

その他、牛が神様であることや、物価の安さにも驚いていた。民族衣装などネパールで仕入れてきたさまざまな物品を披露し、ネパールに対する興味関心を深めた。





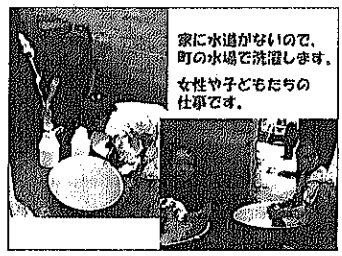
2時限目 ネパールと世界の水事情

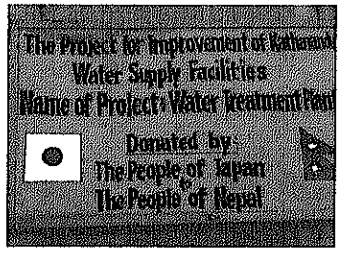
○水くみをしている写真を示し、何をしているところか質問。ワークシートに印しをつけた生徒を起立させ、ネパールでの水道普及率を実感させた。起立した子の家には水道がないと説明すると、驚嘆の声が上がった。

○水がなかったら困ることについて、グループで考えさせた。料理ができない、お風呂に入れないなどの意見が多かったが、植物が育たないという意見を出したグループがあり、後のバーチャルウォーターの説明に上手くつなげることができた。

○水道があっても給水制限があったり、水道水が飲めなかったり、いろいろな問題があることを説明。町の公共の水場で子どもが洗濯している写真や、ホテルのバスタブに溜めた黄色い水の写真に目を丸くしていた。また、日本がネパールで、浄水場の建設など安全な水を供給するためのいろいろな支援活動を行っていることを紹介した。

○世界の水の問題について考えさせた。安全な水が手に入らない人の数や、水が原因で死亡する人の割合などをクイズにして出題し、グループで考えさせながら生命に不可欠な水の大切さについて理解させた。また、私たちが1日に使っている水の量とカトマンズの人の使用量を比較したり、日本人の生活使用水量の推移をグラフで示したりして、いかに日本が水を贅沢に使っているかを実感させた。さらに、バーチャルウォーターについて説明し、世界の水不足は日本にも責任があることを理解させ、水の問題が自分たちの問題であることを認識させた。



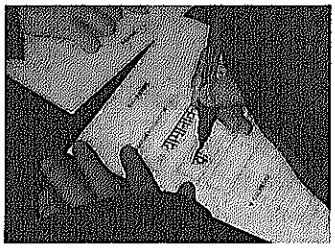


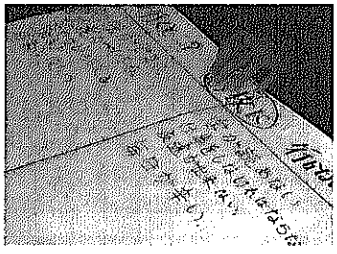
3時限目 ネパールの教育事情

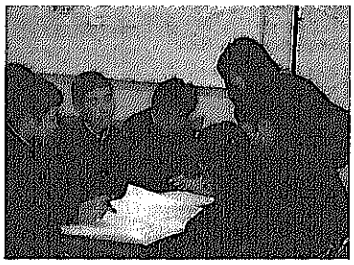
○ワークシートにネパールの文字で自分の名前を書かせた。難しいかと思ったが、見本を見ながら案外上手に書いていた。

○ワークシートに印しをつけた生徒を起立させ、ネパールでの就学率を実感させた。就学率や識字率などを男女別のパーセンテージで改めて示し、その後、なぜ学校に行けない子どもがたくさんいるのかをグループで考えさせた。お金がない、働かなくてはいけないなどの理由ぐらいしか出ないかと思っていたが、予想外にいろいろな意見が出た。学校がない、義務教育がない、民族差別がある、親がいない、先生がいない、早く結婚するなど、多様な視点からの意見が出された。

○ネパールの学校や子どもたちの様子を写真で示しながら、暗くて狭い教室や、子どもの就労状況など、ネパールにおける子どもたちの生活の現状を説明した。
○次の話し合いのためにグループ替えを行った。全生徒に目を閉じさせ、教師が5種類の色のシールを額に貼った。互いに協力し、言葉を交わさずに色別のグループに分かれさせた。新しいグループで模造紙に「学校に行くと？」「行かないと？」という対比表を作成させ、意見交換させた。始めはなかなか意見が出なかったが、グループで話しているうちに徐々にいろいろな意見が出された。
○各グループの模造紙を回覧し、みんなの意見を共有させた。教育を受けられることの有り難さについて考えることができたのではないかと思う。







4時限目 富の分配
「新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」参考

○クラス26人を、豊かなグループ20%（5人）、中間層60%（16人）、貧しいグループ（5人）に分けた。
○麦菓子400gを示し、これが世界の総所得であること、豊かなグループが82.7%、中間層が15.9%、貧しいグループが1.4%を分け合っていることを説明し、それぞれに相当する分量を計算した。
○量りで量りながら各グループに麦菓子を配分し、1人あたりの麦菓子の分量を比較した。
○「シャンパングラスの世界」の図を示し、世界の富の不公平について話し合わせた。

生徒の反応

麦菓子を配った際、「差別や差別!」という怒りの声多数。菓子を数粒しか貰えなかった貧しいグループの生徒は、豊かなグループの生徒に菓子を分けてもらい、それをさらに同じ貧しいグループの生徒に分けるという微笑ましい光景が繰り広げられた。豊かなグループの生徒は、多くの菓子をもらえて嬉しいという気持ちよりも、却って居心地が悪いと感想を述べた。

❖授業の構成［国語表現］

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	世界の文字	①ネパール語の簡単な会話について知る ②表意文字と表音文字について理解する ③ネパールの文字で自分の名前を書いてみる	・ワークシート ・ネパールアルファベットのポスター ・ネパールのカレンダー ・ネパールの教科書類 「旅の指さし会話帳ネパール」
2	世界の言葉	①世界で話されている多くの言語について知る ②使用人口の多い言語や、その他の少数言語について考える	・世界地図 ・ポストイット ・挨拶の言葉を記したカード
3	いろいろな表現	①国旗のデザインには、国の由来や理念などが象徴的に示されていることを知る ②自分の国の国旗を作り、デザインの意味などを文章で表す	・世界地図と国旗のプリント ・画用紙 ・マジック・クレヨン・色鉛筆
4	意見を発表する	①統計的な数字をもとに、世界の現状を理解する ②感想や課題解決のためにできることなどを発表する	・役割カード
5	意見文・感想文を書く	①『世界がもし100人の村だったら』を音読する ②一番印象に残った部分、一番問題だと感じた部分などについて意見交換する ③自分の意見・感想をまとめ、作文する	・『世界がもし100人の村だったら』のコピープリント ・原稿用紙

❖授業の詳細

1時限目 世界の文字

○あいさつなどネパール語の簡単な言葉や、文字、数字をネパールのアルファベットのポスターや、カレンダーなどを示しながら紹介。ネパールでは公用語はネパール語であるが、多くの民族が住み、それぞれの民族内だけに通じる母語もあることを説明した。ネパール語は文法が日本語と似ていることや、公立学校では英語を5年生から学ぶことなども説明した。数字については、カレンダーを見せて1～9にあたる文字を見つけさせた。

○平仮名や片仮名、アルファベットなどに対し、漢字にはどのような特徴があるか考えさせた。漢字以外が音を表す文字であるのに対し、漢字は意味を表す文字であることに気づかせ、表音文字と表意文字について理解させた。

○ネパールの文字は表音文字で、日本語にはない発音もあるが、発音に従ってローマ字と同じ要領で表記できることを説明。最後に自分の名前をネパールの文字で書かせた。

生徒の反応

ネパールのカレンダーや教科書には興味津々だった。『旅の指さし会話帳ネパール』の本を手に取り、巧みに会話を投げかけてくる生徒もいた。自分の名前をネパール語で書くことは、始めほとんどの生徒が無理だと言って嫌がったが、書き方を理解できていない者には机間指導しながら個別にねばり強く説明した。しかし、書き上げると嬉しそうに「当ってる?」「読める?」とあちこちで確認を求めてきた。ただ、私自身もすべての文字を即座に読むことはできないので困った。

2時限目 世界の言葉

○自分が行ってみたい国を1つ選んで、ポストイットに書かせ世界地図に貼らせた。ポストイットは、ヨーロッパやアメリカなどに多く貼られ、全体的に北半球に偏っていた。なぜその国を選んだかについて意見交換しながら、人気のある国が集中した理由について考えさせた。

○世界の挨拶の言葉で知っている言葉を発表させた。自信がなかったのかもしれないが、思っていたほど答えがでなかった。

○世界で最も多くの人が話している言葉は何か予想させた。スペイン語、英語という意見が多かった。

○「新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」を参考にして作った、世界の挨拶の言葉を書いたカードを配布。カードに書かれている挨拶の言葉を声に出して言いながら、同じ言語同士のグループに分かれさせた。もじもじしている生徒もいたが、グループはきちんとできていた。人数の多いグループから順に何語かを発表させた。

○改めて使用言語の多い順を確認し、その理由について考えさせた。1位が予想になかった中国語だったことに対しては、人口が多いという意見が2位、3位の英語、スペイン語については植民地の影響という意見がすぐに出た。

世界地図に貼った生徒たちの行きたい国

3時限目 いろいろな表現

○各国の国旗をプリントした資料を示し、国旗のデザインには、国の由来や理念などが象徴的に示されていることを、例を挙げながら説明した。

○どこかの国旗のデザインを参考にさせ、自分の国の国旗を画用紙に描かせた。なかなかイメージがわかず捗らない生徒もいたので、クラス旗や、自分が社長になったと仮定して社旗などでも良いことにした。

○国の名前を考えて記入させ、国の特徴やデザインの理由についての説明を文章で記入させた。

生徒の反応

楽しんで取り組んでいた。
国旗ではなく四国の旗を描いた生徒もいた。後日、期末考査の地理のテストで、国旗を描いた時に覚えた国が出題されたと喜んでいた生徒がいて、私も嬉しかった。

4時限目 意見を発表する

○まず現在の世界の人口について質問した。64億人という答えがすぐに返ってきた。次に、1950年の世界の人口を当てさせてみたが、現在よりも多い数を答える者が多かった。さらに、2050年の世界の人口を予測させてみると、現在より少ない数を答える者が多く、日本の少子化のイメージで、世界の人口も減少傾向にあると考えているようだった。実際は逆で、この100年余りで世界の人口は急激に増えており、今後も増加することが予測されていることを説明すると、とても意外な様子だった。

○JICA出前講座の資料をもとにした役割カードを配布。役割カードには、世界と日本の「大人・子ども・お年寄り」の別、住環境（水道・電気の有無）、文字が読めるかどうか、1日の食費を記した。

○まず世界の「大人」「子ども」「お年寄り」に分かれ、次に日本の「大人」「子ども」「お年寄り」に分かれた。世界と日本の違いがよく分かったようだ。違いの理由など意見を求めると、「日本は医療が発達しているから寿命が長く高齢化が進んでいる」「日本では結婚しない人や晩婚の人が増え少子化が進んでいるが、子育ての環境を整えるなどして解決しなくてはいけない」など、日本についての意見はいくつか出たが、開発途上国でなぜ子どもが多いかという問いかけには、なかなか意見が出なかった。

○次に、水道・電気のある家に住む人と、それ以外の人とに分かれた。さらに、文字が読める人と読めない人に分かれ、最後に1日の食費が1ドル以上の人と以下の人に分けた。この人数の割合が世界の現状であることを確認した上で、各グループから意見や感想を発表させた。

生徒の感想より

水道・電気がある家をとても羨ましく思う。文字も読めないので薬を選ぶときにも困るし、食費も少ないので栄養のあるものを食べられない。僕は日本に生まれて良かったと思った。

どれだけ日本が経済的に豊かであるかが分かった。募金など発展途上国への救済の機会があれば積極的に参加したい。

世界の中では日本は上にいる立場で、何も不自由がない国だと思う。自分が何気なく生きている間も、世界では今日をどう生きようかという人もいる。食べ物がなくて死ぬ子どもも多い。日本ではそんなことはないし、テレビで大食いなどをやるぐらいなら貧しい国に分ければいいと思う。

約50%もの人が栄養失調なんて考えられないと思った。内戦など苦しい生き方をしている人もいるのに、日本は甘いと思う。たとえばリサイクルできるものはリサイクルするなどして難民の人たちに送るなど、できることを考えなくてはいけない。

5 時限目 意見文・感想文を書く

○印象に残ったところや、問題だと感じたところなどに線を引いていくように指示し、『世界がもし100人の村だったら』を、1人1段落ずつ順に音読させた。

○一番印象に残った部分とその理由、一番問題だと感じた部分とその問題解決方法について考えさせた。質問を受けたり、友達同士で意見交換させたりしながら、自分の意見をまとめさせた。

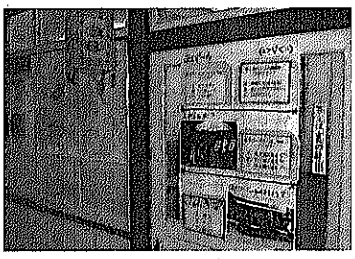
○原稿用紙に自分の意見や感想を書かせた。

生徒の作文（抜粋）

「僕たちの周りでは、いろいろな物がすぐに手に入り、それが普通と思っている」「自分が恵まれていることを自覚して生きていこう」「100人なら他の人がどんな状況なのか理解できるけど、（略）広い世界でも相手を理解してあげたり知ってあげたりすることが大切」「人種や言語や宗教などの違いがあって、理解するまでに時間がかかる（略）自分自身がこの村を理解しようとしなければいけないことに気づいた」「自分は食べられて相手は食べられないじゃなくて、皆が助け合い協力し合って生きていくことが必要」「言葉や人種が違っても人は人なのでみんな一緒だ」「衣食住を支えているのは、世界各地で働いている人たちのおかげ」「世の中には本当にたくさん人がいて（略）いったい何が幸せなのかそれは分からない（略）みんなが人のことを理解し助け合えば、今よりはもっと幸せになれると思う」「村全体は救えなくても、自分の身近な人から愛することや、感謝の気持ちを伝えていきたい」「私たちが少し贅沢を我慢して募金などをするだけで何百人の人たちの命を助けられるかもしれません」

授業の構成［部活動］

時限	方法・内容
文化祭での展示活動	社会問題研究部の部員に、私のネパールでの研修の話を聞かせ、文化祭でネパールの文化や習慣を紹介する展示活動を行った



展示の様子

❖成果と課題

研修に参加したことにより、自分自身が肌で感じたことを自分の言葉で授業できたことが良かった。伝えたいことが多すぎて整理するのが非常に難しかったが、事柄よりも私自身の思いは伝わったのではないかと思う。

授業時間の確保が難しく、ホームルームでの実践が当初の計画より少なくなってしまった。今後、日本の国際協力などについても授業していくつもりである。国語表現の授業では科目の学習に関連させて行ったため、主眼が国語なのか国際理解なのかどっちつかずになってしまった時もあった。しかし、逆に国際理解の要素を取り入れたことが相乗効果となり、国語の学習がいつもより活発になったことも多かった。

国際理解教育や開発教育の視点はさまざまな学習活動に取り入れることが可能であり、生徒のものの見方や考え方を深め、生きる力を育む。本研修を生かし、今後の教育活動の中で、国際理解・開発教育の推進を目指したい。

参考資料

・『新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』（開発教育協会DEAR）
・『まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実 飢餓・貧困・環境破壊』（みなみななみ／日本国際飢餓対策機構編集）
・JICA国際協力推進員 松村幸江さんの出前講座の資料
・ホームページ JICAジャパンデスク ネパール 主な開発指標
・ネパール研修中配布資料